

日々平安を願う

書家・鈴木赫鳳氏に聞く



高萩で生まれ育った書家の鈴木赫鳳氏(73)は、父である鈴木雲鳳氏と殿村藍田氏に師事。これまで数々の栄誉ある賞を受賞されています。

今年度は、国内最高峰の作家が一堂に出品し、美を競う日展の書の部門で審査員を務められました。新春にあたり、これまで

の書の歩み、書との向き合い方について聞きました。

書の歩み

書に囲まれて成長し、大学卒業後は、建築関係の会社に就職。本格的に書に力を入れたいと36歳で独立し、父の書道教室も引き受けました。同年、鎌倉の日本芸術院賞の書家 殿村藍田

氏に指導を仰ぎ、その2年後には日展に初入選。平成26年と28年には特選を受賞し、入選回数は20回に及びます。そして令和5年、書の高い見識が求められる第10回日展の審査員に選出されたのです。

自然体であれ

作品を書く際は「調子込んだり、恰好つけたりせずに自然体であること」とユーモアを交えて話します。

しかし筆を持った瞬間、表情は引き締まり、リズムよく、筆先の形も生かして一気に書き上げます。一字ずつ異なる干支の字の味わいを愛で、「日々平安」の願いを込めました。

「書は、観る人に楽しんでもらうこと」と言いながら書に向き合う時、生き生きと心底楽しんでいるよう。

『気韻とロマン』を求めながら、書の道を歩んでいます。

略歴

1950年	高萩市に生まれる
～1986年	父・雲鳳(うんぼう)に師事
1988～2000年	殿村藍田(とのむら らんでん)に師事
1989年	日展 初入選(以後20回入選)
2014年	改組新 第1回日展 特選受賞
2016年	第3回日展 特選受賞・市民栄誉賞受賞
2023年	第10回日展 審査員
2024年	(公社)日展会員



すずき かくほう
鈴木 赫鳳さん
ひろし
本名 啓志

年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、清々しい新春をお健やかに迎えのことに心からお慶び申し上げます。



さて、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルスが5類感染症になり経済活動は正常化してきましたが、国際情勢に起因するエネルギーや原材料価格の高騰に伴う物価上昇、台風13号の影響による豪雨災害などがあり、私たちの日常生活や企業の経済活動に様々な影響があった一年でした。

人口減少や超高齢化社会の進行に伴い、税収の減少等が見込まれるなか、本市は、行政サービスの維持や向上を進めてまいりました。

本年は、市制施行70周年の節目の年となります。守り継がれてきた郷土の恵みに感謝するとともに、地域振興の新たな可能性を見出す機会となることを期待します。

そして、本市がいつも活力にあふれ、その活力を未来へ繋げていきたいという思いを込め、責任ある行政運営に取り組んでまいります。

また、豊かな地域資源を活かした持続可能な地域づくりを進めてまいりますので、より一層のご支援を賜りますようお願いいたします。

新しい年が皆様にとって幸多き年となりますことを心よりご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

高萩市長
大部勝規

【訳】新年が郷愁を誘う。遠い故郷を思い、ひとり涙を流す。
出世は叶わず、人の下で使われるありさま。また春がめぐってきた。
山猿と朝夕を迎え、川辺の柳と風や露をともしする。
我が身はまるで王に仕えた文人のよう。
これから何年、この地で過ごすことになるのか。



第10回日展(2023)

劉長卿「新年作」

郷心新歲切、天畔獨潸然。老至居人下、春歸在客先。嶺猿同日暮、江柳共風煙。已似長沙傳、從今又幾年。



辰・龍



新春プレゼント

令和6年の干支の色紙を5名様にプレゼント。応募方法は、P20をご覧ください。